

地域おこし協力隊通信

第45回



リポーター…
高橋将行 隊員



春は演奏会のシーズンですね (^_^)

こんにちは、協力隊の高橋です。1年で1番寒いとされる大寒を過ぎて、雪が雨に変わり、少しずつ春の陽気に向かって、植物も動物も、そして私たちも活動し始める時期ですね。

さて、前回の私の寄稿（令和4年12月号市報）にて、年末は実家（八王子）に帰省し、家族と今後の話し合いをする…という記事を書きました。ここには「争」を防ぎたいという気持ちと、家族との良好な関係を守りたいという気持ちがありました。

その意志を持って実家に帰省しましたが…結果は大失敗。12月30日に帰宅したとたん、家族から総スカンにあり、会議なんて出来る様子ではありませんでした。家族会議をしたいということは帰省前に伝えていましたが、どうもその伝え方がアウトだったようです。

これから続く話し合いの中で、『相続会議』『家族会議』とタイトル付けをすると重たい雰囲気になってしまっているのではないかと思ひ、ざつとばらんに意見が言えるように、今風でフランクなネーミングとして『高橋家サミット2023』という会議名を付けました。この軽さが両親の癪に障ったようでした。両親はいずれも健康診断では指摘なしという程の健康ぶりでした。死を連想させるような話題提供事体がNGであることある程度承知していましたが、まさかあれほど拒否反応を示されるとは思いませんでした。

ただ今回、相続や資産の分割について話したかったのではなく、例えば『身体に支障が生じて在宅で老後の生活を送りたい』『土地を売って、マンションに住み替えたい』というような両親の今後の人生設計を中心に聞き取りたかっただけなんです。

そんなこんなで、会議にもならず、関係だけはギクシャクしてしまいました。決して良い年明けとは言えず、しょぼんとしてしまった正月でした。ただ、このまま放置もできないですし、いつか両親たちの言葉で今後の意思を伝えてもらわなければならぬと思っていますから、うかうかもしていられません。相続への取り掛かりは早いに越したことはないと思います。



潮来市空き家・空き地情報バンク

～おしえて!! 認知症～ = 第16回 =

早期受診・治療が大切です

認知症の早期受診・早期治療はその後の生活を大きく左右します。「どうせ治らないから医療機関にかかっても仕方ない」などの考えは改め、専門の医療機関を受診しましょう。またかかりつけの病院があれば、まずはそちらに相談しましょう。

認知症地域支援
推進員が教えます



早期に受診するメリット

- ・病気を知り、理解を深めていくことで、生活上の困りごとを減らすことができる。
- ・症状の軽いうちに、その後の生活について準備をしておけば、認知症であっても自分が願う生き方を全うすることができる。

診察内容

- ・CT、MRI、脳血流検査などの画像検査
- ・記憶・知能などに関する心理検査
- ・認知症のような症状を引き起こす身体の病気ではないことを確認する検査 など

治る病気や一時的な症状の場合もあります

認知症のような症状がでて、治る病気や一時的な症状の場合もありますが、長期間放置すると回復が難しくなってしまいます。

- ・生常圧水頭症、脳腫瘍、慢性硬膜下血種…脳外科的処置で劇的によくなる場合があります。
- ・甲状腺ホルモン異常…内科的治療でよくなる場合があります。



認知症カフェ「いたこハートカフェ」 次回開催予定

- 日時** : 3月8日（水）
午後2時～3時30分
- 定員** : 10名（要予約）
- 場所** : グループホームこころ内「カフェつぐみ」
（潮来市日の出1-2 1-1）
- 申込み** : グループホームこころ
☎ 80-9055

1月の参加者は1名でした👏(^_^)